

# 国土交通省「交通空白解消・官民連携プラットフォーム」

## 人口減少時代における十勝バスの取組み ～ サステイナブルな「街づくり政策×交通政策」～

十勝を、もっと安心、ぐっと楽しく、ずっと健康に

私たちはいつも身近な存在として、  
皆さまに生活の安心を届けます。

弊社は健康経営に取り組み、従業員の健康維持と体力増進を目指します。

TOKACHI BUS CORPORATION



令和6年11月25日(月)

十勝バス株式会社

代表取締役社長 野村 文吾

# 会社概要

- \* 設立 大正15年 (1926年)
- \* 資本金 6,000万円
- \* 従業員数 226名
- \* 車両数 118両



一般乗合バス  
(98両)



一般貸切バス  
(20両)



ジャンボハイヤー



介護事業



学童保育・教育事業



便利事業



飲食事業

# 事業規模等

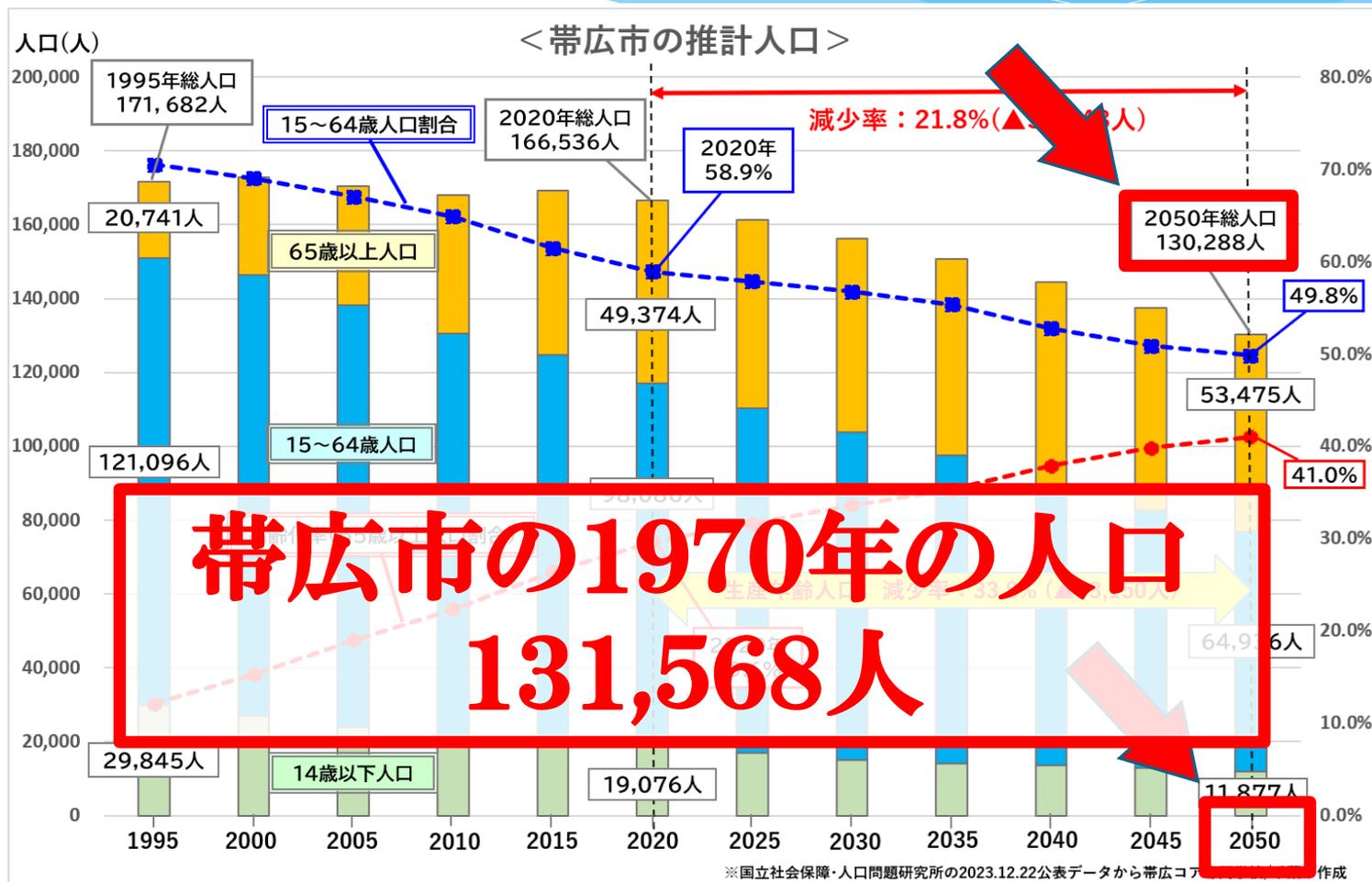


# 1. 「人口減少」時代の到来



# 1. 「人口減少」時代に「今向かう未来」

## (2) 推計人口 — 帯広市

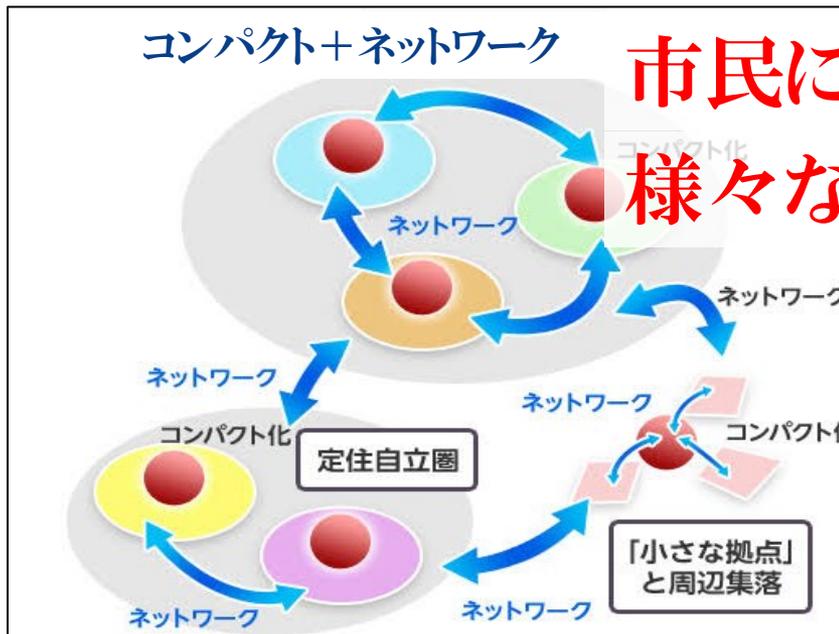


## 2. 「人口減少」時代に 交通の「今向から未来」

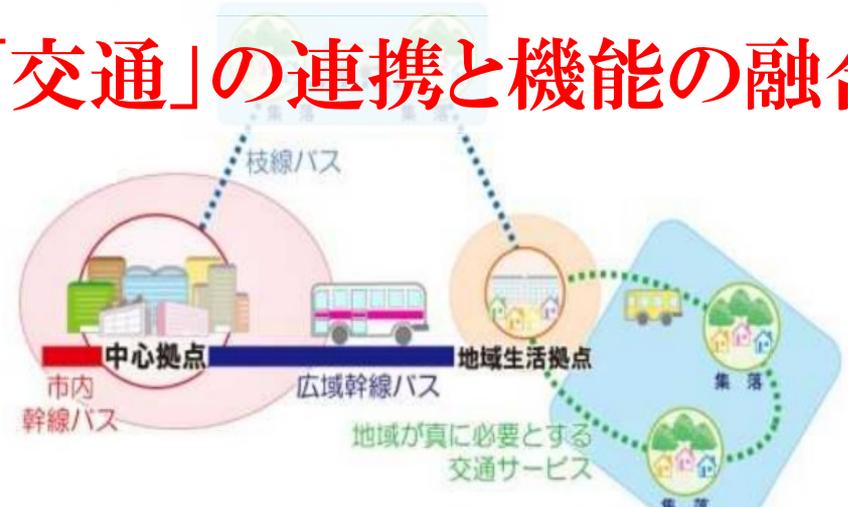
## 2. 「人口減少」時代に交通の「今向かう未来」

# (1) 「コンパクト＋ネットワーク」の 実現に向けて

- \* 「交通の共創」で地域密着をさらに深掘り
- 街づくりのインフラであるバス路線の「選択と集中」



市民に「喜ばれる」便数に増便  
様々な「交通」の連携と機能の融合



路線の「選択と集中」





## 2. 「人口減少」時代に交通の「今向かう未来」

### (3) 「公共交通 円卓会議2024」で発表

# 選択と集中で市民に喜ばれる路線づくり



本気の挑戦について語る野村社長



【東京】公共交通の改革と協調の機運を高めるシンポジウム「公共交通経営者円卓会議2024」が25日、都内で開かれた。十勝バス（帯広）の野村文吾社長が、帯広市大空地区に進めるまちづくり事業の挑戦について語った。

オンラインを含め約700人が参加。「本気の挑戦」

連携でまちづくり  
大空での挑戦語る  
十勝バス野村社長

（池谷智仁）



# 3. 「人口減少」時代に 街づくりの「今向から未来」

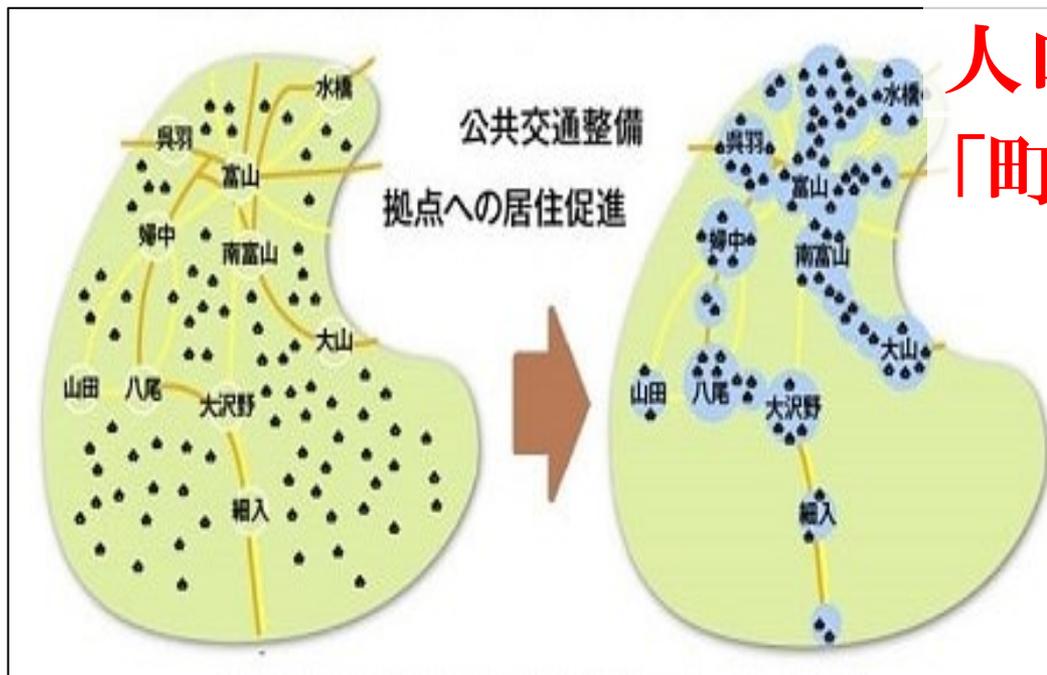
### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (1) セグメント×深掘り

挑戦!

\* ミニ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり!

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する



人口減少・移動総数減少  
「町内会づくり」から始める



### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (1) セグメント×深掘り

挑戦!

\* ミニ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり!

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する

# 全ての生活サービスを集中投入



### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (1) セグメント×深掘り

挑戦!

\* ミニ「コンパクト＋ネットワーク」で街づくり!

・ 市民にとっての最善の生活環境を整備する

全ての生活サービスを集中投入

「町内会づくり」×複数→「街づくり」

交通との共創＝真の生活MaaS



### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (2) 国土交通省でも交通との共創が

\* 様々なステークホルダーが動き始めた

・ 国土交通省のコロナ後の地域交通の政策に！

2021年7月19日(月) 東京交通新聞

国土交通省 総合政策局  
地域交通課長 倉石誠司氏

キーワード  
「共創」

「新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で行いたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。

**横顔**

国土交通省総合政策局  
地域交通課長  
倉石誠司氏



旧運輸省ポストの総合政策局地域交通課長に、前身の交通支援課長を含めて初めて旧建設省出身者が就いた。「今回の人事にはびっくりした。でも、うれしかった。意気を感じている」とは本人の弁。「地域づくり・まちづくりは私のライフワーク」と言い、地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で行いたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。

「新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で行いたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。

倉石氏は、旧運輸省ポストの総合政策局地域交通課長に、前身の交通支援課長を含めて初めて旧建設省出身者が就いた。「今回の人事にはびっくりした。でも、うれしかった。意気を感じている」とは本人の弁。「地域づくり・まちづくりは私のライフワーク」と言い、地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で行いたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。

倉石氏は、旧運輸省ポストの総合政策局地域交通課長に、前身の交通支援課長を含めて初めて旧建設省出身者が就いた。「今回の人事にはびっくりした。でも、うれしかった。意気を感じている」とは本人の弁。「地域づくり・まちづくりは私のライフワーク」と言い、地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。新型コロナウイルスの経験を経て、地域コミュニティはますます、範囲2キロくらいの小集積になる。地域づくり・まちづくり、暮らしの満足度を第一に据え、住民目線で行いたい。家族、ウェルビーイング(心身の幸福)、介護・福祉、教育などテーマはいろいろとある」と基本姿勢を示す。地域の公共交通とまちづくりの一体化が促進されそうだ。

### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (2) 国土交通省でも交通との共創が

\* 様々なステークホルダーが動き始めた

・「共創」により、生活サービスを深化！政策に！

- ① 「飲食×交通」：市民の集う場所×ミニ「生活・交通」ターミナル
- ② 「カフェ×交通」：市民の集う場所×ミニ「生活・交通」ターミナル
- ③ 「物販×交通」：マルシェバス＝百貨店・スーパー×交通
- ④ 「農業×交通」：農家から客貨混載ネットワーク×物販@ミニBT
- ⑤ 「教育×交通」：大学サテライト×ミニ「生活・交通」ターミナル
- ⑥ 「建設×交通」：ミニバスターミナル×コミセン@大空小跡地

### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (3) 実際に生活サービスを集中投入！

### \* 共創によるコミュニティの創造！

- ・ 人と人の分断を解決する場を提供する



### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (3) 実際に生活サービスを集中投入！

### \* 共創によるコミュニティの創造！

- ・ 人と人の分断を解決する場を提供する



「買い物難民」があまりにも多いことに気付く

「サービス」をお客さまに近付けることも使命

### 3. 「人口減少」時代に街づくりの「今向かう未来」

## (3) 実際に生活サービスを集中投入！

「街づくりと交通の融合」＝都市政策×交通政策

「旅客輸送と貨物輸送の融合」＝人流×物流



「買い物難民」があまりにも多いことに気付く

「サービス」をお客さまに近付けることも使命

# 4. あらゆる「モビリティ」の 「機能」を融合

## 4. あらゆる「モビリティ」の「機能」を融合

# ・街づくりの様々な「機能」が低下

\* 「真のMaaS」で地域密着をさらに深掘り

・「人口減少」は「運転者不足」にも強く影響

図1-1-4 高齢化の推移と将来推計



**2050年には1960年代の人口まで減少**  
**当時の街づくりの在り方が参考**  
**「物流×人流」車両で機能を融合**

何も対策を行わなかった場合

**2030年には営業用トラックの輸送量のうち約35%が運べなくなることも…<sup>※2</sup>**

このようなことが起きるかもしれません。

●トラック運送事業者

- これまでの物流を維持するためには、トラックドライバーの増員が必要だが人材が確保できない。



●荷主

- 荷物が指定した日時に届かないかもしれない。
- 荷物が運んでもらえなくなるかもしれない。



●消費者

- 当日、翌日配達の商品が受けられないかもしれない。
- 水産品、青果物など新鮮なものが手に入らないかもしれない。



2024年問題を回避するためには荷主の皆様と私たちトラック運送事業者のパートナーシップの構築が必要です。

「荷待ち・待機時間の削減」「手荷役作業の削減」「リードタイムの延長」「再配達の削減」など、トラックドライバーの労働時間改善にご協力いただくとともに、ライフラインとしての物流を維持するため、「標準的な運賃」の導入や燃料コスト上昇分の価格転嫁など、適正な運賃・料金にご理解をお願いします。

資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

※1 「自動車運送業の労働時間削減に向けた取組の進捗（改善進捗表）」は、トラックドライバーの労働時間削減、労働環境改善、業務効率化等について記載しています。  
 ※2 国土交通省の調査によると、2030年にはトラックドライバーの不足が深刻化する見込みです。国土交通省の調査によると、2030年にはトラックドライバーの不足が深刻化する見込みです。

## 4. あらゆる「モビリティ」の「機能」を融合

# ・街づくりの様々な「機能」が低下

\* 「真のMaaS」で地域密着をさらに深掘り

・「人口減少」は「運転者不足」にも強く影響

**2050年には1960年代の人口まで減少**  
**当時の街づくりの在り方が参考**  
**「物流×人流」車両で機能を融合**

十勝毎日新聞 (2024年12月)



十勝バス(帯広市)で荷降ろしする佐川急便のスタッフ。バスの後部ドアからは後座は全て貨物スペースで、側面には積み下し用の開口部も設けられている。(7日午前9時ごろ)

座席半減、トラック代替

十勝バスが貨物運送

十勝バス(帯広市、野村文吾社長)は7日、貨物バスで運送物流事業の実証実験を始めた。2006年から取り組んでいた「貨客混載」を発展させ、最大150kgまでの貨物を運ぶため、バスの座席を半分以上取り除き、貨物用に広いスペースを確保。乗車人数が少ない路線で、トラックの代わりによくの荷物を運ぶことで収益を上げ、路線維持につなげる狙い。(高橋 隆)

帯広―広尾間 実証実験

同社が中核を担う十勝バス(帯広)を運営する「帯広交通共同プラットフォーム」の事業で、国土交通省の補助金を活用し、きき通、幌路は広尾から実証実験では、帯広―広尾間の貨物を載せて通常運行区間での貨物を運送する。十勝バス(帯広)は佐川急便と連携し、十勝バスの本社を回して出発後、佐川急便がプラットフォームに加盟営業所で貨物を積み込み、バスを台を運送した。座席を貨物と併せて併用バスとして、ミナールから広尾営業所前に荷物を置かれたり、



大空ローカルハブを「拠点」化

# 5. 生活と交通の「ハブ」 としての「拠点」を整備

## 5. 生活と交通の「ハブ」としての「拠点」を整備

# ・今、目指す「大空ローカルハブ」

\* 「社会実装」を目指して、実際に集中投入

・ 「拠点」の設置で、共創によるリ・デザイン

市民に「喜ばれる」街づくりで人口増加  
賛同する大手企業の投資を呼び込む



## 5. 生活と交通の「ハブ」としての「拠点」を整備

# ・今、目指す「大空ローカルハブ」

- \* 「社会実装」を目指して、実際に集中投入
- ・ 「拠点」の設置で、共創によるリ・デザイン



増加  
込む

日野自動車さまが「大空進出」!

## 5. 生活と交通の「ハブ」としての「拠点」を整備

### ・今、目指す「大空ローカルハブ」

- \* 「社会実装」を目指して、実際に集中投入
- ・ 「拠点」の設置で、共創によるリ・デザイン

いくつもの賛同企業との共創で、  
スピードアップと成果拡大を目指す

国土交通省が

「街づくり×交通」を政策化！

日野自動車さまが「大空進出」！

## 5. 生活と交通の「ハブ」としての「拠点」を整備

# ・今、目指す「大空ローカルハブ」

\*「社会実装」を目指して、実際に集中投入

・「拠点」の設置で、共創によるリ・デザイン

2024年の賛同企業  
大空地区のアップと  
公示地価上昇率が  
全国5位！

新聞

2024年(令和6年)3月27日(水曜日)

16版 商 況 経 済 10

### 2024年公示地価上昇率全国上位

※道外自治体の所在地は一部簡略化

住宅地	所在地	価格 (円/平方メートル)	変動率 (%)
1	富良野市北の峰町25-11	49,500	27.9
2	千歳市栄町2-25-20	76,500	23.4
3	沖縄県宮古島市上野	10,800	21.2
4	千歳市柏陽2-3-11	20,500	20.6
5	帯広市大空町1-6-13	17,700	20.4
6	千歳市緑町3-2-5	60,100	20.2
7	福岡市博多区麦野	195,000	19.6
8	長野県白馬村北城	15,900	19.5
9	千歳市花園5-2-14	73,500	19.5
10	十勝管内幕別町札内 あかしや町47-23	27,000	19.5

全国地価3年連続上昇

## 5. 生活と交通の「ハブ」としての「拠点」を整備

- ・ 今、目指す「大空ローカルハブ」

\* 様々な「機能」を融合させた  
・ 「拠点」の設置で、「拠点」を水平展開

「街づくり×交通」で  
共創によるリデザイン

十勝バスは、新しいスタイルの  
地域密着「街づくり会社」に

# 課題

1. 路線の「選択と集中」への戦略的な制度が必要
2. 「広義の運輸連合＝MaaS」を進める予算が必要
3. 「機能の融合車両」の開発費用・運用制度が必要
4. 生活と交通の拠点「ハブ」を整備する予算が必要

## 官民連携プラットフォームへの期待

- ◎ これらの課題について、企業の皆さまと共有・議論することで、新たなソリューションを発見する
- ◎ 十勝バスとしても、地域密着「街づくり会社」を目指すことで得たノウハウを、本プラットフォームで共有・還元し、地域における移動の足の確保に貢献する

国土交通省「交通空白解消・官民連携プラットフォーム」

人口減少時代における十勝バスの取組み  
～ サステイナブルな「街づくり政策×交通政策」～

ご清聴、ありがとうございました

十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾